

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「エキュメニカルつながりの中で」

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

先日、2018年のNCC（日本キリスト教協議会）創立70周年を記念する「NCC主催・宣教会議」が開催されました。NCCは、WCC（世界教会協議会）やCCA（アジアキリスト教協議会）ともつながりつつ、日本の多くのキリスト教会が、かつての侵略戦争に協力した歴史を省みながら、いのちの痛みに寄り添うエキュメニカルな共同体として、約30の教派や教団体が手をつなぎ活動しています。NCCは、創立50周年にあたる1998年と敗戦後60年にあたる2005年とに、過去2回の宣教会議を開催し、社会の様々な矛盾の中で発せられる「命の痛み」に共感し、寄り添っていくことこそが、イエスの示された宣教の原点であることを確認しています。今回の宣教会議開催にあたって、2016年から4回にわたる「プレ集会」を開催しながら、〈み言葉＝ケリユグマ〉ーみ言葉に聴き、伝えること、〈奉仕＝ディアコニア〉ー世界の必要に応え仕えること、〈証し＝マルトウリア〉ー生活の中で福音を具体的に証しすること、〈祈り・礼拝＝レイトゥルギア〉ー祈り・礼拝すること、というテーマを紡ぎ、教会の豊かな働きが、〈交わり＝コイノニア〉ー主にある交わり、共同体となるために、各委員会や部の活動を通して大切にしたいNCCの働きが宣教宣言としてまとめられています。

「私たちの宣教・伝道とは、聖霊の助けと導きを信じ、…見失ってはならないオイクメネーの「地の果て」からの〈いのちの叫び〉に丁寧に聴き、そこで私たちを待っておられるイエス・キリストを目指し、そこに遣わされることにあります。…互いにつながれて、「神の宣教」のために働く「主にある交わり、共同体」となることを、ここに宣言します。社会派か福音派か、という二元論に陥ることなく、人間の生のすべての領域に関わる喜びと解放の課題について共働していくエキュメニカル運動でありたいと願います。マイノリティを孤立させず、多文化共生社会の実現を目指すことが、エキュメニカル運動の課題です。…女性は宣教の客体ではなく「主体」であることを確認し…私たちの「コイノニア」は…あらゆる世代、ジェンダー、セクシュアリティに属する人々が「主体」でなければなりません。日本におけるキリスト者はその人口の1%以下ですが、聖

## □会議・プログラム等予定

(2019年7月25日以降)

### 7月

- 25日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 31日(水) 法憲法規委員会、教理・組織調査員合同打ち合わせ〔管区事務所〕
- 31日(水) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔管区事務所〕

### 8月

- 21日(水) ～23日(金) 聖公会関係学校教職員研修会〔箱根〕

### 9月

- 4日(水) ～6日(金) 人権セミナー〔熊本〕
- 5日(木) 神学教理委員会〔管区事務所〕
- 6日(金) 聖公会／ルーテル教会協議会〔管区事務所〕
- 9日(月) 法憲法規委員会〔管区事務所〕
- 12日(木) ～14日(土) 聖公会／カトリック合同会議〔長崎〕
- 18日(水) 年金委員会〔管区事務所〕
- 19日(木) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔三原〕
- 24日(火) ～26日(木) 管区共通聖職試験〔各教区〕
- 26日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 26日(木) 主事会議〔管区事務所〕

### <関係諸団体会議・他>

- 7月25日(木) ～27日(土) 聖公会保育連盟大会〔横浜〕
- 8月6日(火) 広島平和礼拝〔広島〕
- 9日(金) 長崎原爆記念礼拝〔長崎〕
- 20日(火) ～23日(金) WCRP 世界大会〔ドイツ〕
- 23日(金) ～30日(金) 世界聖公会・世界改革派共同体国際対話〔広島〕

(次頁へ続く)

### ※管区事務所夏期休業

8月9日(金) ～16日(金) までの間、夏期休業いたします。よろしく願いいたします。緊急の場合は総主事まで。

霊に押し出され、自己保存的な志向から解放されて、常に開かれた共同体、より包括的な共同体でありたいと願います。…少数者であるからこそ、日本にはエキュメニカル運動が必要であること…限界ある不完全な私たちであることを自覚するからこそ、私たちは「塩で味つけられた言葉」をもって、他者の連帯と共働を喜ぶのです。(NCC 宣教宣言2019より) アーメン。

また、宣言文を内在化させるためのリタニー「共働を願い、聖霊を求める祈り」も同時に採択されました。宣言文全文はNCCのホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください

(前頁より)

9月3日(火)～4日(水) 女性団体連絡協議会〔バルナバホール〕  
3日(火)～6日(金) マイノリティ・ユースフォーラム〔沖縄〕  
19日(木) NCC 委員長会議〔早稲田〕  
30日(月) 日本キリスト教連合会常任委員会・定例講演会〔早稲田〕

り、各地域でのエキュメニカルな交わりの中でご利用ください。

「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」(Ⅱコリント12:9、聖書協会共同訳)

## □主事会議

第64(定期) 総会期第5回 2019年7月1日(月)

<主な報告・協議>

1. 日本聖公会研修支援資金について、同資金を神学者養成にも活用できないかとの主教会からの要請を受け、具体的な学びや学費などの計画書の提出を条件に、支出が可能であると判断した。
2. 遺贈献金について、財政担当者の集いなどで各教区での受け入れ状況や経験を共有し、管区の受け入れ態勢を整えていくこととした。
3. 2022年の日本聖公会宣教協議会について、120名規模の協議会を想定し会場の確保等について担当主教・宣教主事・首座主教・総主事を中心に準備を急ぐことを確認した。
4. 建築金融資金の規程について、現在の規程では学校法人や社会福祉法人への支出は不可となっているが、いのちを守るという視点に立ち、建築融資資金運営委員会からの意見や常議員会の承認を必須条件として、融資条件の条文に「原則として」という文言を挿入し、常議員会と次回総会へ提案することとした。
5. 大斎克己献金国内伝道プロジェクト選定基準及び手続について、応援後の「計画の進捗状況や結果について常議員会および教

区会または総会において書面にて報告すること」という文言を追加することとした。

6. 給与調整資金の計算方法や有効性について、検討を続けることを確認した。

次回以降の会議:9月26日(木)、11月18日(月)

## □各教区

### 九州

- ・ 教区設立125周年記念礼拝 9月23日(月) 11時～ 九州教区主教座聖堂  
司式: 教区主教 ルカ武藤謙一  
説教: 前教区主教 ガブリエル五十嵐正司

## □管区刊行物の訂正

- ・ 代祷表1頁 2019年8月4日(日)  
(誤) 東南アジア聖公会、ング・ムーン・ピング大主教(マレーシア教区主教)のため  
(正) 東南アジア聖公会、ング・ムーン・ピング大主教(首座主教・西マレーシア教区主教)のため
- ・ 憲法プロジェクト発行『戦争証言集』  
大岡義明司祭による「学徒出陣で中国へ」の表現を訂正いたします。

11頁 15行目 自由の学校 → 自由の学府  
12頁 9行目 混成第2旅団通福 → 通稲  
13頁 2行目 神学校 → 神学院

## 《人事》

## 東京

司祭 マリア・グレイス笹森田鶴	2019年3月31日付	聖アンデレ主教座聖堂主任司祭の任を解く。
マルコ松村 豊	2019年3月31日付	東京教区事務所総主事の任を解く。
	2019年4月1日付	東京教区事務所総務・危機対応デスク（主事待遇）に任命する。
司祭 フランシス下条裕章	2019年4月1日付	聖アンデレ主教座聖堂主任司祭に任命する。
	2019年4月1日付	東京教区事務所総主事に任命する。
	2019年4月14日付	東京教区信仰と生活委員会委員長および同委員の委嘱を解く。
ノア大岡 基	2019年4月15日付	東京教区信仰と生活委員会委員長を委嘱する。 （任期：2019年12月31日まで）
司祭 ステパノ卓 志雄	2019年6月30日付	東京教区事務所宣教主事の任を解く。
	2019年7月1日付	東京教区信仰と生活委員会委員を委嘱する。 （任期：2019年12月31日まで）
ミカエル諫山禎一郎	2019年6月30日付	東京教区資料保全委員会委員長の委嘱を解く。
司祭 ヨセフ太田信三	2019年6月30日付	東京教区信仰と生活委員会委員および財政委員会委員の委嘱を解く。
	2019年7月1日付	東京教区事務所宣教主事に任命する。
司祭 セラピム高橋 顕	2019年7月1日付	東京教区主教秘書に任命する。
司祭 ダビデ倉澤一太郎	2019年7月1日付	東京教区資料保全委員会委員長を委嘱する。 （任期：2019年12月31日まで）

## 京都

司祭 マタイ出口 創	2019年8月4日付	願いにより、2019年8月4日から一カ月の休職を認める。
------------	------------	------------------------------

## 《教会・施設》

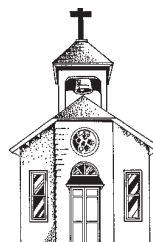
盛岡聖公会・牧師館（東北）	2019年7月	改築のため、仮牧師館に移転。 〒020-0015 盛岡市本町通3丁目18-33 三和マンション503号
仁王幼稚園（東北）	2019年7月	改築のため、仮園舎に移転。 〒020-0021 盛岡市中央通3丁目7-18 ラ・ベルヴィ中央1階

管区事務所が編集を進めています！

## 聖公会手帳 2020

- ・日記と年鑑を兼ねた便利性！
- ・教会暦・日課表を完全収録！
- ・教会・伝道所と関連施設が、直ぐわかる
- ・紙質を軽量化して使いやすさを追求！

○大型判 2,200円／通常判 1,200円（税込）

申し込みは聖公会書店（Tel. 04-2900-2771）、  
またはお近くの書店まで。

## 特集・2019年の沖縄週間 / 沖縄の旅 6/21～6/24

### ぬち たから 命どう宝 ～神の愛に生きる～

「空の鳥をよく見なさい。」(マタイ 6:26)

正義と平和委員会委員長 沖縄プロジェクト 担当主教  
沖縄教区主教 ダビデ 上原榮正

6月21日から24日まで、スタッフ及び全参加、部分参加を含め約68名の皆さまと共に「沖縄週間、沖縄の旅」が行なわれました。今年は梅雨の明けない雨の中での「沖縄の旅」となりました。

テーマは「命どう宝(ヌチドウタカラ)」、サブタイトルは「神の愛に生きる」、聖句は「空の鳥をよく見なさい」(マタイ6・26)でした。聖句には、日米安保条約や地位協定から派生する問題は沖縄だけではなく、本土にもあることに気づいてほしいという思いが込められています。

沖縄に対する本土の方のイメージとしては、米軍基地もあると思いますが、青い海や青い空、亜熱帯の気候、珊瑚や本土には見られない動植物を思い起こす方が多いかと思われます。飛行機が沖縄に近づきますと急に低空飛行になり、日中は海や山や景色が良く見えるようになります。窓から外を眺め、飛行機会社のサービスだと思えば喜びが皆さまも大勢おられます。

しかし、これはサービスではなく、民間機が一番危険な空域を飛ぶからです。沖縄の空は、米軍の嘉手納基地を中心に半径90キロ、高度6,000メートルが嘉手納ラプコンと呼ばれる管制を受け、民間機は高度300メートルの飛行制限を受けます。民間機の上を自衛隊機が、その上を米軍機が飛行しており、緊急事態になれば、真っ先に海に墜落するのは、海の近くを飛ぶ民間機になります。

空にある、米軍の見えない軍事基地は、沖縄だけではなくありません。飛行機が羽田空港を離着陸する際、千葉県房総半島の方から急旋回、

急上昇をして、東京湾を回り込む形でアプローチや離陸が行なわれていることに気づかれると思います。これは、横田ラプコンがあるためです。他に岩国ラプコンがあり、松山空港の離着陸の飛行機に影響があります。本土にも米軍基地のために、危険な状況が造られているのです。

「空の鳥をよく見なさい」。鳥は自由に空を飛び回っていますが、日本の空には米軍の占領空域があり、日本の飛行機は自国の空を自由に飛べません。米軍の基地問題は、沖縄だけではなく、本土の問題でもあるのです。

旅の初日、嘉手納基地と砂辺地区を見学しました。嘉手納では戦闘機や輸送機の離発着と騒音を体験しました。砂辺地区は、嘉手納飛行場へ離発着する空路の真下に当たる海岸地域にあります。騒音の激しさから住民は引っ越し、空き地が目立ちます。住民が減少し、地域行事にも影響がある所です。

しかしこの数年に本土資本が流れ、海岸沿いに高級マンションが出来ました。米軍基地内の家族が基地外に移り住み、アメリカンビレッジと呼ばれるコミュニティが出来ています。今では砂辺地区だけで、約4千人の住民登録のない米軍関係者が住んでいます。沖縄全体では約5万人です。

案内の方のお話では、彼らは住民登録が無いので、誰が誰だか分からない。税金を払わないが、ゴミの収集や水道、電気などインフラは利用する。夜中に騒ぐ。騒音が激しく、注意をしても聞かないなど、多くの問題があるとのことでした。米軍関係者と住民との間にある外からは見

えにくいトラブルです。

夕刻、沖縄国際大学の前泊博盛教授から『沖縄。今、何が起きているのか』というテーマで基調講演を伺いました。1つご紹介しますと、北方領土が還らないのは、日米安保、日米地位協定があるからとのことでした。条約では、日本政府は米軍が望む所に基地の提供が義務づけられています。

プーチン大統領は北方領土を返還すれば、日本政府は米軍基地を造るので返還をしないと述べています。プーチン大統領は、日本政府を米国の傀儡で、主権の無い国家と見做しています。これは、沖縄の米軍基地を見ても明らかです。全てが米軍寄りの基地政策がなされ、日本国民、沖縄住民の側への配慮はありません。

2日目、普天間基地と辺野古の新基地建設現場へと行きました。生憎の雨で、現場を見ることも、座り込みの人たちとの交流もできませんでした。しかし私は辺野古海岸で、一人で黙々と海岸の整備をしている方と出会いました。

その方のお話では、辺野古は大型船が接岸でき、弾薬庫が併設された新基地であり、滑走路が短いので、普天間基地の代替えにはならないとのことでした。前泊教授も、普天間基地内には新しい建物が次々と立てられ、普天間は返還されないだろうと話されていました。埋め立てには90メートルの海底の砂に杭を打つなどの問題

もあり、日本政府の主張とは異なり、辺野古の新基地建設は普天間基地の問題解決とはならないようです。

6月23日、「慰霊の日」礼拝で、広田勝一北関東教区主教から旧約聖書の教える平和について伺いました。礼拝後、信徒の方の戦争体験をお聞きしました。戦火の中を逃げ惑い、家族が砲弾の犠牲となり、母親はその方をガマ(壕)に入れるために、日本兵の命令で幼い弟妹を戦場に遺棄したお話をなさいました。最後に「2度と戦争を起こさせないため、体験を語っている」と述べられました。

教会で、米軍基地や自衛隊、戦争の話が出ますと、政治問題だから関わりたくないという人がおられます。しかし、民間機の低空飛行、北方領土返還、騒音被害、住民登録のない税金を払わない幽霊住民など、全て生活と命に関わることです。基地に働く人たちにおいても生活と暮らしの問題です。教会は2分されます。

でも教会は、この問題を避けるべきではないと思います。神さまは、痛みや苦しみのあるこの世界に働きかけておられます。教会は、神の宣教を担う共同体です。教会は喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣くキリストの体であり、これは宣教の5指標にも関わることなのです。

## 2019年「沖縄週間 / 沖縄の旅」の報告

### 平和への願いをひとつにした旅

命どう宝 ～神の愛に生きる～

正義と平和委員会 沖縄プロジェクト担当委員  
司祭 サムエル 小林祐二

6月21(金)～24日(月)、沖縄にて本年も「沖縄週間 / 沖縄の旅」が行なわれました。日本聖公会各教区から、また日本基督教団からの参加者も含め25名の参加がありました。スタッフは管区

4名沖縄教区8名、このほか沖縄教区の参加者を含めると総勢およそ70名の旅となりました。主題聖句「空の鳥をよく見なさい」(マタイ6:26)のもと、米軍基地を巡るプログラムが主となりました。

初日、まず那覇空港に集合した一同はバスに乗り込みフィールドトリップへ出かけました。通行した「西海岸道路」は2018年3月に開通した新たな道路です。基地の間を縫う国道58号線の混雑緩和に資するものですが、バスの高い座席から見ると自然海浜の上を通るような位置にあることがわかり、開会の祈りをささげつつも少々気になりました。帰宅後調べたところ、自然環境に負荷のないよう慎重な準備が進められたとのこと。橋梁が多かったのはそのためだとわかりました。

そしてバスは「道の駅かでな」へ。この道の駅からは嘉手納飛行場が一望できます。米空軍が所有し、3,700mの滑走路2本(1本は現在工事中)、常駐機およそ100機と言われる極東最大の空軍基地です。道の駅滞在中は米空軍のC-130系輸送機が頻繁に離発着を行なっていました。日程によってはF-15戦闘機が同様に訓練を行ない、また偵察機の姿を見ることもあります。近隣の騒音、また近隣諸国との緊張関係がわかる場です。館内には当基地の歴史等に関する展示があり、はじめて訪れた参加者は熱心に学んでおられました。

続いて嘉手納基地の西側に位置する北谷町砂辺地区に移動し、「クマヤーガマ」を訪れました。このガマ(自然洞穴)は、他のガマと同様



クマヤーガマ

に沖縄戦では多くの住民が退避しましたが、唯一、一人の犠牲者も出なかったとのこと。内部を案内していただくと、現在は照明が設置され地形も足もとわかりやすくなっていましたが、

電源を切ると当時の暗闇と緊張が伝わってくるようでした。続いて砂辺馬場公園へ移動し、1945年4月1日の米軍上陸の様子を象ったモニュメント、隣接する外国人向けの住宅地を訪ねました。地域住民の減少に対して米軍基地内からの移住者が多いこのエリアには、見渡す限り「Yナンバー」の車(米軍関係者の私用車)ばかり。アメリカンスタイルの住居群が軒を連ねていました。

夕方には主会場の三原聖ペテロ聖パウロ教会に到着。オリエンテーションの後、講演会「沖縄・いま何が起きているのか〜検証=基地・憲法・民主主義〜」が沖縄国際大学・前泊博盛教授によって行なわれました。学生に対する授業のように平易な口調、ユーモアいっぱい沖縄の米軍基地や政治、経済に関わる多くの問題点に触れられ、情報に潜む「ゆくし」(沖縄のことばでうそ、偽り=フェイク)や矛盾を、ファクト(事実)とエビデンス(証拠・根拠)であぶり出す必要性をご教示くださいました。また翌日午前のフィールドトリップでは、同学敷地内の米軍ヘリ墜落地点、および建物屋上を開放して普天間飛行場(米軍海兵隊)をガイドしていただき、オスプレイをはじめとする航空機だけでなく、車両群の塗装(迷彩種類の変化)の変化により米軍の動向が把握できることを教えてくださいました。

フィールドトリップは続いて普天間第2小学校へ。2017年2月に米ヘリコプターからドアが落下する事件があり、その後校庭にシェルターが作られ、子どもたちがヘリ飛行にあわせて避難を繰り返しながらの授業が継続されているとのこと。米軍への申し入れに対し飛行状況にどのような変化があったのかは目にすることができませんでしたが、あのシェルターで本当に子どもたちが守られるのか、少々疑問に思われました。そして普天間から辺野古へ。土曜日、また翌23日の慰霊の日行事を控えてか工事作業に大きな動きは見られませんでした。ニュースでは感じられない進展状況、規模を知ることができたことと思います。

辺野古を後にした一同は、沖縄教区各教会で



米軍のコンテナ

主日を過ごすための「分宿」に散らされ、分宿先教会会衆との交わりを持ちました。沖縄戦の体験を聞かせていただいたり、また「愛楽園」で療養所の歴史と現在に触れた参加者もありました。主日聖餐式をそれぞれの教会でささげた後、一同は北谷諸魂教会で再会し、沖縄教区慰霊の日礼拝に参列しました。この礼拝では本年新たに沖縄戦犠牲者に加えられた方々のお名前を憶えて追悼し、礼拝後は三原聖ペテロ聖パウロ教会信徒の喜屋武幸清兄による沖縄戦当時の証言に耳を傾け、その苦難と、それを長い間背負って歩まれた同兄のご生涯に思いを寄せました。

最終日はグループに分かれて振り返りと分かち合いのときを持ち、神の愛による平和への願いをひとつにして閉会の祈りをささげ、散会となりました。

沖縄の梅雨明けは平年6月23日とのこと。しかし本年は旅の初めから終わりまで空は鉛色で、にわか雨を気にしつつ過ごしました。青い空と海を思い描いていた方にはこのような空模様がまず「知られざる沖縄」であったことでしょう。海と空だけでなく、メディアで知らされる沖縄も一断面に過ぎません。参加者のお一人おひとりが沖縄の地で感じ取られた感覚、そしてそれを客観的に裏付ける知識を求めつつ、神の愛に生きる者として護られ、生かされますよう願っております。

今年も日本聖公会諸教会の皆さまの祈りと支えのうちに旅を終えられたことを感謝いたしま

す。今回で25回を迎えたこの旅が、日本聖公会のプログラムとして続けられている意義を忘れず、働きを続けて参りたいと思います。

□「沖縄週間・沖縄の旅」に参加して

## 沖縄の現実を学んだ旅

大阪教区 執事 ペテロ 金山将司

去る6月21日から24日、沖縄慰霊の日にあわせて毎年開催される沖縄週間に今年初めて参加いたしました。沖縄本島には昔観光で行ったことがありましたが今回はそのとき見た沖縄とは違う、戦地として、また米軍基地問題に苦しむ沖縄の姿を見て、知ることになりました。沖縄の問題について、ニュースで見た、政治の話として話題に上がっていた問題だ、ということは知っていましたが、どのように深刻で、何が具体的に問題なのかと言うことを全く知らなかったと今回の旅で感じました。

沖縄の旅は慰霊のみではなく沖縄の抱える問題を実際にその現場を見ながら、また講演や実体験を聞かせていただきながら見て、聞いて回りました。特に沖縄国際大学教授の前泊博盛氏や、沖縄で暮らす方達からお話をいただき、沖縄の抱える基地問題が、政治問題ではなく、もっと深刻な命や権利に関わる問題であると言うことを認識しました。

しばしば沖縄の問題で米軍が何をしても日本は調査できないことがあります。それは全く事実であり、そのことこそが沖縄の人々の生活と命を脅かしているのです。大学にヘリコプターが落ちてきても原因を追求できない。それどころか自分たちが米軍の調査のため大学から閉め出される。子供達が通う学校にヘリコプターから部品が落ちて飛行をやめさせることもできない。そのような命と権利を保障してもらえない状況に

ある。こうして考えれば基地問題は右左などの政治的な話ではなく、人の命、当たり前の権利の問題であると思います。

また慰霊の日礼拝では、沖縄戦を経験した喜屋武氏のお話を聞きました。それは戦争を知らない私たちに突き刺さる話でした。砲弾の雨の中、逃げ、少しずつ家族が失われていく。最後は洞窟まで追い詰められて、兄弟までも見殺しにしなければならなかった。本当に壮絶なことであると感じました。またそのなかでも洞窟まで降伏勧告にきた米兵が、真っ先に洞窟を飛び出した喜屋武氏を抱きかかえ、水を飲ませてくれたという話が心に残ります。彼は米兵を命の恩人であると言われていたことが、戦争の悲惨なお話の後にあって、とても深く印象に残りました。

今回の沖縄の旅で今まで自分がいかに沖縄で何が起きているのかを知らないことに気がつきました。その現実を来て、見て、帰って祈り、伝える。そのことが大切だと感じます。沖縄の抱える様々な問題が解決することを、また沖縄戦で亡くなったすべての人の魂の平安を今後も祈りのうちに覺えたいと思います。

□「沖縄週間・沖縄の旅」に参加して

## 日本の政治のほころびを見る

神戸教区 姫路顕栄教会  
マリア 藤岡夏未

初めて沖縄の旅に参加しました。那覇空港に着いて曇っていたのにすごく蒸し暑かったのを思い出します。しおりを事前に貰っていたものの、目を通した時は何も思いませんでしたが、実際スケジュール通りに動くと、超ハードなプログラムでした。

私は歴史等に詳しくはありませんが、歴史や政治には興味があります。沖縄に行ったことで、

私が知らなかった沖縄の歴史、日本の政治、それと沖縄の人の想いを聴けることができ本当に良かったと思っています。

私は沖縄には過去に家族旅行と高校の修学旅行で2回行きました。その時に思った私の感想は、すごく綺麗な海に、見たことのない植物が咲いていて、これが南国の島というものであり、この島に住めたら最高だなというのが私の感想でした。

今回の旅に参加して、いつもとは違う視点から沖縄を見ることができたと思います。米軍基地は私が思っていた以上に大きかったということ、飛行機の事故が多いこと、騒音被害が相次いでいること、何と言っても驚いたのが、沖縄に弾薬庫があるということ(横田基地等にも弾薬庫があるかもしれないが)、私たちが学校で学んだ非核三原則はどこに行ったんだと思いました。現地の人の話を聞くたびに、日本の政治って大丈夫なのか、このまま生きていく上で本当に争いがなく、誰もが傷つかず、平和に1歩でも近づくことができる国になっていくのか疑問に思いました。

分宿は、首里聖アンデレ教会に泊まり、楽しい時間を過ごすことができました。自己紹介(自分の生い立ち)、戦争の映像やお話を直接聞き、信徒さん達との会話や一緒に歌を歌ってごはんを共にした時間が私の中でとても有意義な時間となりました。

私は、大学で心理学を学んでいます。臨床心理士の資格を取るのを諦めて就職しようと思っていましたが、沖縄に行ったことによって、PTSD(心的外傷後ストレス障害)患者が多いということを知りました。私にできることは少ないですが、何かできると思い、もう少し心理学の勉強をしようという気持ちになりました。この気持ちは揺らぐことはないです。臨床心理士を目指そうと思います。

この旅に参加しないと恐らく分からなかったこと、知らなかったことがたくさんありました。沖縄は今どんな状況に置かれているのか、何が問題であるのかを完璧に分かったわけではありませ



んが、語ってくれた人達の気持ちが私の心に響きました。

多くの人と交わりを持てたこと、そしてこの旅に参加できたことを感謝しています。この旅に参

加して私が思ったこと、感じたことを、周りに伝えていけたらと思っています。

みなさん本当にありがとうございました。来年も参加したいです。

## 日韓協働合同会議 ～ 2019現場研修から～

日韓協働委員会委員長 主教 アンデレ 磯 晴久

先日、友人から楽譜を頂いた。  
題名は「大きな橋」。1番の歌詞をご紹介します。

きみとぼくとの間には  
目には見えない壁がある  
国境の壁 ことばの壁  
歴史とくらしの壁がある  
この壁を崩したら  
壁は倒れて 海に浮かび  
海を渡る 大きな大きな橋になるだろう  
(詩・曲 佐田義人)

日本と韓国の民間レベルでの交流は随分と深まっていると感じるが、現在、日本政府と韓国政府の関係は、最悪の状況である。日本聖公会と大韓聖公会の間に、延いては日本と韓国の間に「橋を架ける」ことに貢献することが、日韓聖公会協働共同会議の使命であり、祈りである。

去る6月11日(火)～12日(水)川崎桜本地域での現場研修と、横浜山手聖公会を会場に合同会議が行なわれた。韓国側は委員長の朴東信(パク・ドンシン)主教以下10名、日本側は委員長の磯晴久主教以下10名が参加した。

11日現場研修のために私たちは、在日大韓基督教会川崎教会に集合した。同教会牧師として、今回お話しくださる予定であった金健(キム・ゴン)牧師が急逝されたということで、研修はまず金健牧師のことを憶え、永年のお働きへの感

謝を込めて、ご家族とともに逝去記念の祈りをささげることから始まった。そして、在日大韓基督教会横須賀教会の牧師であり、マイノリティ宣教センター共同主事金迅野(キム・シニヤ)牧師から、共生社会実現のために川崎教会を中心に行なわれた具体的な働きと歩みについてお話を伺った。

50年前、川崎桜本は在日韓国・朝鮮人多住地域であり、厳しい差別の現実があった。そうした中、李仁夏(イ・インハ)牧師(故人)は、教会活動を開始、さらに「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい。」を基本理念に、教会内に無認可保育園(現在認可保育園)を立ち上げた。自らの民族を恥じることなく、いきいきと生き、自立できる地域社会を目指して、様々な取り組みや闘いが繰り返されてきたことを伺った。

午後、日本側は前社会福祉法人青丘社館長三浦和人さんに、韓国側は金迅野牧師に導かれてフィールドワークに出発した。まず私たち全員は桜本保育園を訪れ、丁度この日開催されていた「トラジ(桔梗の花の意味)の会」に参加させて頂いた。トラジの会は、戦前戦中日本の植民地であった朝鮮から渡って来られた一世と日本生まれの二世、そしてニューカマーの高齢のオモニたちの会である。トラジの会の皆さんは、今までの同会の歩みを編集したスライド観賞と報告を聞いておられた。オモニたちは厳しい差別と生活の中で、互いに支え合いながら、前を向いて、

胸を張って生きて来られたことが伝わってくる内容だった。私が心に残り、感動したのは、オモニたちが率先して戦争反対のデモ、ヘイトスピーチ反対のデモを行なう写真、ヘイトスピーチのカウンターパートに暴力は使ってはいけないと諭す写真、そして先の南北会談を歓迎するトラジの会で、オモニたちが愛唱歌を熱唱する写真であった。

フィールドワーク出発前、三浦さんより「まさか自己紹介だけということはないですよ」と、私たちは一芸を披露することを求められた。当惑する私たちに参加者の一人中部教区の金善姫(キム・ソンヒ)司祭が、「アリランと赤とんぼの唄を重唱するといひ」との提案を受け練習し、それを

オモニたちの前で披露した。大変好評で、その後一緒にオモニたちが練習している盆踊りに加えて頂いた。楽しそうに踊る朴主教の姿が印象的であった。

また、共生社会実現のために努力しておられると感じたのは、桜本保育園の入園や保育の相談が常時スペイン語、韓国語、英語ででき、必要があれば北京語、タガログ語、ポルトガル語で対応できるということである。

保育園を後に、在日韓国・朝鮮人が今も多く居住している池上町を歩き、「だれもが ちから いっぱい いきるために」と建てられた社会福祉法人青丘社「ふれあい館」を見学して、フィールドワークを終了した。

## 日本聖公会婦人会第26(定期)総会を終えて

— 全11教区揃っての総会 —

日本聖公会婦人会 会長 斉藤道子(北関東教区)

2019年6月12日～13日、日本聖公会婦人会第26(定期)総会が北関東教区 志木聖母教会を会場に開催されました。今総会は、植松誠首座主教(北海道教区)、広田勝一主教(担当主教 北関東教区)、小林尚明主教(神戸教区)、磯晴久主教(大阪教区)、高橋宏幸主教(東京教区)にご臨席をいただき、チャプレン7名、司祭5名、代議員20名、他傍聴者、総勢100名の参加により15年ぶりで全11教区揃っての総会となりました。

総会は、開会聖餐式で始まり、広田勝一主教司式のもと、説教を上田亜樹子司祭(アメリカ聖公会 ハワイ教区)にいただき行なわれました。多くの教役者の皆さまによる聖餐式は、聖堂に祭色の緑が映え、晴れやかな喜びに溢れました。

総会は礼拝堂を議場にして、植松誠首座主教、広田勝一主教よりそれぞれにご挨拶をいただき議事に入りました。

今期役員会は、日本聖公会婦人会の逼迫した

財政と会員減少という現状を重く受け止め、3年を経て総会を迎えました。岐路に立つ日聖婦を共有いただいた全国婦人会会員には、昨年よりネット通信、書類配信をはじめとして新しい試みにご協力いただき、第26(定期)総会ではこの3年の総括としてもう一步踏み込んでの提案を致しました。お陰さまで多くの賛同をいただき全議案が承認され、現状に少しの歯止めをもって次期役員会(大阪教区婦人会)に繋ぐ事が出来ました。

皆さまのご協力により議事が大変スムーズに進み、一日目は2つの議案を残して夕食の時間となりました。食後には、ご臨席の主教様をご紹介し一言いただき、婦人会への深い思いをお聞きして勇気をいただきました。また、九州教区女性の会前会長佐々木姉より傍聴者参加の女性の課題担当 柴田康子姉の紹介があり、形は変わっても繋がる道を確かめ合いました。

続いて懇談親睦の会では、各教区からチャプ

レンと活動の紹介があり、どこも同じ問題を抱えているが、こうして集う中で支え合えると明るい笑いが響き、就寝前の祈りで一日を閉じました。

二日目は、代議員…被献日献金活用実施申請審査会、傍聴者…感謝箱献金のお話に分かれて始まり、議事再開で昨日残した審議に入りました。最終議案 次期会長選出教区選挙は大阪教区婦人会に決定。大阪教区婦人会参加者の動じる事ない様子に、誠に神さまがご用意くださった事と思われ、この日ご臨席いただいた大阪教区の磯主教をご紹介しますと主教様から大阪教区婦人会へのエールがあり感謝致しました。

プログラムは、国連女性の地位委員会（CSW）報告：金子登美江姉（管区事務所総務主事/北関東教区）、講演「2019年ウガンダ現地報告」：桜木奈央子様（アルディナ ウペポ現地コーディネーター/フォトグラファー）と続き、CSWでの大きな働きと、一人のささやかな献金が感謝箱献金で確かに繋がる道を学ぶ実り多い時となりました。

こうして11教区揃っての二日間に亘る総会は、次に繋ぐ余韻を残して閉会礼拝をもって終わりました。

これまでにいただきました全国婦人会会員の皆さまのお祈りと多くのお支えに、役員一同、心より感謝申し上げます。

主に感謝致します。

《以下、決議事項報告》

## I. 諸報告

1. 役員会：・第25(定期)総会后 第1回、第2回会長会の報告・第2回会長会後の報告(主な事項)…「ニュースレター」68号、69号を「ガリラヤのほどり」同封にて発行。神戸教区婦人会に西日本豪雨被災者支援金として3万円を送金。聖職接手をされた9名の皆様にお祝いをお贈りした。
2. 感謝箱献金事務局(コア)運営委員会：・2016年4月～2018年3月の報告・第2回

会長会後の報告(主な事項)…「ガリラヤのほどり」30号、31号をネット印刷により発行、ハンドブック2018年度版からネット印刷とする。

3. アジア教会婦人会議日本委員会(ACWCJ)：2018年度報告…一日研修会11月2日日本基督教団 富士見町教会にて開催、関西支部一日研修会10月5日日本キリスト教団 神戸栄光教会にて開催。

## II. 議案審議

① 感謝箱献金のお献げ先に関する件として以下の9議案が提出され承認。

- 1 「聖地ろうあ子どもの里-HLID」2「リグリマ・ジャパン」3「サイディア・フラハ」4「アルディナ ウペポ」5「ニームの会」6「国際子ども学校」7「難民・移住労働者問題キリスト教連絡会(難キ連)」8「NPO 法人ワンダウム」9「岩手県難病・疾病団体連絡協議会」…総額170万円

② 役員会から10議案が提出され承認。

1. 本年、九州教区からの個人会員が増えたことから、本会の会員である個人会員から有志グループ枠の申請が可能になる為に、被献日献金活用実施申請の対象者(グループ枠)を「本会に属する全会員が対象」に変更する。
2. 2016年から3年間、毎年30万円を災害被災者支援積立金に積み立てしてきたがここで終わる為、新たに2019年から3年間、災害被災者・東日本大震災被災者支援積立金として、感謝箱献金から毎年30万円を積み立てる。
3. 第30条【創立記念日】現行の「本会は、2月2日(被献日)を創立記念日とし、教区婦人会または教会婦人会等で礼拝を行い、神の宣教の業に参与するために、会員・教会に連なる人・教役者が主体を持って学ぶ・育つことを祈り、献金を献げる。」に「なお、組織成立(設立)年月日は1908年4月7日と

- する。」を追加する。
4. 年々分担金収入が減少しており一般会計の収支の是正が必要である事から、2019年より日本聖公会婦人会一般会計のうち、慶弔費を被献日献金より支出する。
  5. 被献日献金活用実施の関連団体枠のうち、日本聖公会婦人会総会における交通費補助について、女性教役者を対象としない。
  6. 2016年度から2018年度会計報告
  7. 2019年度感謝箱献金事務局(コア)運営費補正予算の件
  8. 2020年度から2022年度感謝箱献金事務局(コア)運営費予算の件
  9. 2019年度一般会計補正予算の件
  10. 2020年度から2022年度一般会計予算の件
    - ③ 日本聖公会婦人会次期会長選出教区選挙は、1回の投票結果により次期会長選出教区は大阪教区に決定した。(大阪教区…13 神戸教区…3 横浜教区…2 中部教区…2)
- III. 被献日献金活用実施申請審査  
有志グループ枠3団体の申請が承認。
1. 北海道教区 新札幌聖ニコラス教会 マリア会
  2. 京都教区 奈良基督教会婦人会
  3. 北海道教区 深川聖三一教会婦人会
- 以上

## BSA 創立100周年記念 ロゴマークを募集



BSAは2027年に創立100周年を迎えます。このたびBSA内に「BSA創立100周年記念プロジェクト」を立ち上げ、その準備に入りました。その最初の取り組みとして、下記要項により、ロゴマークの募集をいたします。みなさまからのご応募をお待ちいたします。

### BSA 創立100周年記念 ロゴマークの募集要項

#### 1. ロゴマークの募集

BSA(日本聖アンデレ同胞会)は2027年に創立100周年を迎えます。それを記念して下記によりロゴマークを募集いたします。

#### 2. ロゴマークのコンセプト

- (1) 「祈祷と奉仕」というBSAの精神を表し、BSA100の文字を入れたもの。
- (2) チラシ、封筒、名刺、ウェブサイト等で利用可能なデザインであること。
- (3) モノクロ・カラーは自由。
- (4) ハガキサイズ内に収め、2cm×2cmに縮小しても使用可能であること。

#### 3. 応募条件

- (1) 日本聖公会の教役者・信徒
- (2) BSA会員、またはBSAの活動に理解のある人
- (3) 1名につき一作品
4. 応募締め切り 2019年12月16日(月)
5. 応募・問い合わせ先  
郵送 : 105-0011  
東京都港区芝公園3-6-18  
日本聖公会東京教区事務所気付  
BSA本部創立100周年プロジェクト係  
メール : bsa@nssk.org  
電話 : 03-3432-1696
6. 選考結果の発表  
BSA機関紙VISION169号(2020年1月)およびBSAのホームページ(<http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org/index.html>)で発表。
7. 表彰 採用作品には、記念品を贈呈します。なお、採用作品の著作者、著作権等はBSAに所属します。

(担当理事・島崎敏彦)

## 世界の聖公会の動向

☆西インド諸島の新首座主教が取り組む教育問題

☆メラネシア聖公会の前首座主教がソロモン諸島総督に選出される

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

### ○西インド諸島の新首座主教が取り組む教育問題

過渡期にある教会のための教育制度は、ジャマイカとケイマン諸島教区の主教であり、西インド諸島聖公会の新首座主教に選出されたハワード・グレゴリー大主教にとって重要な課題になるだろう。

今後に関し、「ほとんどの地域と同じように、我々は変化の時代に生きているので、私たちがこの管区にどんなビジョンを持っているのか、そして私たちがどのような違いを生み出すのかを見極めなければなりません。ただしそうは言っても、物事を起こすのは主教だけではありません。私たちの次の管区総会の成果が、教育制度を中心に構成された行動計画を作成するのに役立つことを願っています。」と述べた。

主教は、この新しい計画が、家族、多文化共生、地域社会、そして生活のすべての領域に及ぶ課題を持つことによって、人々のやる気を引き出し、教育制度に関わるのに役立つことを望んでいる。「少なくとも、変化をもたらすことができることを願っています。私たちは人口統計やその他の変化の影響を受けた過渡期にある教会です。私たちは発展途上国にいるとみなされていますが、世俗主義や物質主義など、いわゆる西洋社会が直面しているいくつかの問題からも影響を受けています。私の所属する教区では、実行可能性と持続可能性の問題に取り組んでおり、

そのためのプロジェクトを開始しました。私は管区全体でそれらをどのように扱うことができるのかについて注視したいと思います。」

### ○メラネシア聖公会の前首座主教がソロモン諸島総督に選出される

メラネシア聖公会の前首座主教、デヴィッド・ブナギ主教が次のソロモン諸島総督に選出された。1978年にイギリスから独立した後も、ソロモン諸島は英国女王を元首とする君主制の政府であった。総督は、同諸島を治める女王の代行者として、国会によって選出される。大部分は形式的な役割であるが、ある程度の権限は保持している。

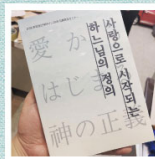
デヴィッド主教は2009年から2016年に退職するまでメラネシア聖公会の大主教だったが、故郷のイザベル島の村に戻り、地元のカレッジの校長に任命されていた。

デヴィッド主教は「妻のメアリーと私はこの選出をとても謙虚に受け止めています。私たちはこの威厳ある地位に就く準備をしながら、知恵を授けてくださることを祈っています」と語った。



## 青年活動のための日

2019年8月4日



だから、わたしたちは  
このような人たちを  
助けるべきです。

そうすれば、  
真理のために  
共に働く者となるのです。

(ヨハネの手紙三 1章8節)



2018年8月 日韓聖公会青年セミナー

日本聖公会

管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日本聖公会  
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yurai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

## 日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」声明

日本聖公会は、2012年の第59（定期）総会決議「原発のない世界を求めて ―原子力発電に対する日本聖公会の立場―」、および同年の日本聖公会宣教協議会「いのち、尊厳限りないもの」で原子力発電に対する姿勢を明確にしました。その具現化のために、2019年5月28日から31日まで、仙台基督教会および茂庭荘を会場にして、11教区の信徒、教区主教を含む聖職と、英国・米国・韓国・台湾・フィリピン各聖公会からの参加者、および日本キリスト教協議会平和・核問題委員会、そして管区正義と平和委員会、管区事務所各主事、実行委員、スチュワードを含む総勢68名が一堂に会し、「原発のない世界を求める国際協議会」を開催しました。

基調講演（仙台基督教会・一般公開）はドイツからミランダ・シュラーズ氏を招き、「エネルギー政策の大転換をしたドイツから」と題して、第二講演は川上直哉牧師から「十字架ヲ通ッテ光へ ～苦難の中からの声・惨禍の中の祈り」と題して、また、台湾（賴榮信 ライ・ロンシン主教）、韓国（金基錫 キム・ギソク司祭）、日本（相澤牧人司祭）からの発題を受け、二度にわたるグループシェアリングを通して原発のない世界を求めるための学び、語り合いの時を持ちました。そして、参加者一同は、以下の声明を採択し、呼びかけます。

### いのちの尊さを確認し、そのいのちを生きるために ～原発のない世界を求めて～

2011年3月11日の東日本大震災によって発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故やその被害は、それまでの安全神話を完全に打ち砕き、原子力発電は極めて危険なものであることを気づかせました。私たちはこの原子力発電の問題をいのちの尊厳から捉えることが、極めて大切であると考えています。

原子力発電は稼働する限り危険な放射性廃棄物を生み出し続けます。本当の安全とは何か。いのちあるものが生きる上での安全とは、危険な廃棄物をこれ以上増やさないとということでしょう。また、原子力発電を考える時、「核兵器」と「原子力発電」は「一つのコインの裏と表」であり、その技術はいつでも核兵器への転用が可能であることを意味し、平和に生きる権利を脅かします。

これ以上原子力発電に依存する経済優先の社会を続けるべきではなく、そのためには節電・省エネに取り組むことはもちろん、再生可能エネルギーへの政策転換を行い、新たな道を歩むべきでしょう。原子力発電は電気を作り出す過程の中で、地球温暖化の原因ともなっています。また、原発事故は起きると取り返しがつかず、他のどんなエネルギー源よりも危険であることを私たちは再認識しました。8年がたった今も深刻な影響が残る一方、

時が経つにつれ被災された方々の痛みや苦難を忘れがちな私たちがいます。原発のない世界を求める国際協議会特祷の中で「わたしたちはあなたによって委ねられた被造物を治めよとのご命令に背き、自然資源を乱用し、原発事故によって自然と人びとの生活を破壊しています。どうか、これらの罪をお赦しください。わたしたちがあなたの愛に立ち帰り、苦難の中にある人びとをおぼえ、あらゆるいのちと共生できる原発のない世界を造りだす知恵と力をお与えください」と祈りました。

原子力発電から解放された世界を目指す旅をし、「フクシマの出来事の証言者」であり続けていくために、私たちは以下のことを呼びかけます。

- 東日本大震災がもたらしているさまざまな出来事を見つめ、証しし続けること。
- 原発事故が起きれば、取り返しのつかない事態になることを認識し続けること。
- 日本聖公会に「福島週間（仮称）」を創設し、“あの出来事”が語ることを聴き、学び、いのちを尊び、平和に生きる社会の実現へと歩み続けること。
- 脱原発のための国内外のネットワークを強化・充実させること。
- 未来を受け継ぐ次世代のために、原発による負の遺産をこれ以上残さないこと。
- 各教区に自然エネルギーによるモデル教会をつくり、方向性を指し示すこと。
- 各個教会が自然エネルギーへ転換する時の融資制度を、日本聖公会に設けること。
- 宣教の5指標の一つである「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」に具体的に取り組むこと。

これらを通して原発のない世界を求める歩みを続けて行こうではありませんか。

荒れ野で叫ぶ者の声がある。「主の道を整え、その道筋をまっすぐせよ。」

(マルコによる福音書 第1章3節)

2019年5月31日

日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」参加者一同



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

管 区 事 務 所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

# 日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

2019年8月15日

主にある兄弟姉妹の皆様へ

日本聖公会首座主教 主教 ナタナエル 植松 誠  
正義と平和委員会 委員長 主教 ダビデ 上原 榮正

## 8. 15 平和メッセージ

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。  
国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。(イザヤ2章4節)

主の平和が皆様と共にありますように。

2019年8月15日、わたしたちは74回目の終戦記念日を迎えます。わたしたちは、過去の過ちを認め、かつての日本の侵略によって、未だに傷つき、深い悲しみと苦しみの中に人々の慰め、癒しと共に罪の赦しを祈ります。

今も尚起きている戦争、内戦、衝突などの争いによって傷つき倒れている人々のため、国々の和解と平和が実現されるよう祈り続けましょう。戦争になると、いつも先に、社会的に弱い立場の人が戦争へと駆り出され、弱い立場の人々が犠牲となることを忘れてはなりません。

わたしたちは東アジア、殊に、韓国、北朝鮮、中国、ロシアとの間の安全保障を確立し、平和の実現を願っています。しかし、中東、特に最近ではイランとその周辺諸国との間に新たな紛争が起きつつあります。2000年以降、アフリカや中東では、内戦、紛争、衝突と呼ばれる戦争状態が30件以上も起きており、多くの難民と貧困を生みだしてきました。その難民がヨーロッパ世界の治安の不安、EUなどの政治的不安定の原因にもなっています。

科学技術の発達で世界が狭く小さくなり、日本の安定と平和も、世界の平和と直結していることを痛感するようになりました。世界各地の戦争、紛争がなくなる限り、平和は実現しません。もはや自国だけの平和と発展を望むことは出来ない世界にわたしたちは暮らしています。にも関わらず、大国の為政者は自国の発展のために、経済と安全保障問題を絡めて、世界を混乱と不安に陥れています。

憲法改憲について、首相は国会で議論を続けると述べていますが、戦後74年、日本が戦争もせず、近隣諸国から平和国家として信頼を得ることが出来たのは、憲法第9条があったからです。自衛隊は憲法に明記が無くても、災害支援など十分に働くことが出来ます。再び戦争が起こる、出来る国としないことが大切です。

「わたしたちを平和の器にしてください」という祈りは、日本聖公会が戦後50周年を迎えて、宣教協議会を開いて以来、今までずっとささげ続けている祈りです。不安や恐れ、危険や困難、悲しみ、苦しみの中にいる人たちに心を向け、その人々と共に歩むということ、それを私たちは何よりも大切な宣教の課題に据えてきました。わたしたちの平和への歩み、たとえそれが小さなわざであっても、そこにこそ神の御国が実現していくとわたしたちは信じて、希望を持って進みましょう。

主に在りて。